

第2回インフラメンテナンス大賞

上下水道 老朽化に立ち向かう

インフラメンテナンスの優れた取り組みや技術開発を称え広く紹介することでその取り組みをさらに促進することを目的とする「インフラメンテナンス大賞」の表彰式が9日、東京・霞が関の中央合同庁舎2号館講堂で開かれた。昨年に続く第2回となった今回は、32団体が受賞。各省が所管する分野から優良事例が並ぶ中、上下水道の取り組みも受賞している。日本のインフラ全体が老朽化の課題に直面する中において、上下水道も様々な工夫や技術開発でそれを克服しようとしている。「上下水道メンテナンス」の今後に注目したい。

NJS、東亜グラウト工業にも

昨年度創設されたこの賞。受賞事例は「ベストプラクティス」として広く普及されることが期待される。現場での工夫や技術開発など各分野での優れた取り組みが並ぶ。式典の開催にあたり石井啓一・国土交通大臣は、多くのインフラが急速に老朽化していると指摘し「戦略的な維持管理・更新を進めていくことが重要。インフラの長寿命化に関する計画をしっかり策定した上で、知恵や新技術を総動員しインフラメンテナンスに取り組みなければならない」と呼びかけた。

国土省特別賞を受賞したNJS



東亜グラウト工業には国土省優秀賞



通、防衛の各省から大臣賞、特別賞、優秀賞が設けられた。205件の応募があった中で32件が選ばれた。

後すでに2000組以上の豊富な納入実績があることなどが評価された。式には鈴木仁・社長が出席し賞状を受け取った。

このうち、「厚労大臣賞」を大成機工が受賞。不断水で設置可能な継手部補強金具による既設管の地震対策だ。本格開始

水道分野ではほかに「情報通信技術の優れた活用に関する総務大臣賞」を松江市上下水道局が受賞。IoTを活用し

オープン型遠隔監視システムを構築、広域的に水道施設の運転・維持管理する取り組み。市町村合併や水道事業の統合により管理する施設が膨大になる中、率先してIoTを活用し効率化を図った点が評価された。導入したシステムは汎用性の高いものだという。壇上で川原良一・松江市上下水道事業管理者が拍手を浴びた。

下水道分野の取り組みも粒ぞろい。NJS（下水道管路等の閉鎖性空間点検調査用ドローン）に係る開発が国土省が設けた特別賞を、東亜グラウト工業（ヒートライナー工法）が優秀賞を受賞している。



厚労大臣賞を受賞した鈴木社長（中央）ら大成機工の関係者

厚労大臣賞に「不断水」大成機工

松江市上下水道局には総務大臣賞



表彰を受ける川原管理者ら松江市上下水道局の関係者

総務、文部科学、厚生労働、農林水産、国土交

2018年8月23日
水道産業新聞